令和7年度　学校自己評価書　（川南町立多賀小学校）

項目	評価指標　及び　具体的目標	方策・手立て	項目	総合	結果の考察・分析および改善策等
Ⅰ　町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進					
1	**家庭教育支援の充実に努める。** 〇　家庭学習提出95% 〇　望ましい家庭学習の具体的姿の提示 〇　保護者相談、個人面談の充実	〇　「家庭学習の手引き」等をもとにした通信や懇談会等での啓発（学期１回以上） 〇　就学前教育との連携(２回以上の交流) 〇　傾聴を基にした保護者の願いの把握	3.1	3.2	〇「家庭学習の手引き」等を活用し、年度当初家庭への啓発を行うことができた。児童の宿題や自学ノート等の良いものを教室内や学年掲示板に貼ったり通信の載せたりするなどして、児童の意欲を向上させるなど意欲の向上を行っていきたい。 ●高学年での取り組み状況がよくない傾向がにある。課題に少しでも前向きに取り組めるように、工夫や意欲付け、見届け、など家庭との連携を図りながら提出できる児童を増やしたい。
2	**学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。** 〇　各行事等の参加率９０％以上 〇　ＰＴＡ執行部等との綿密な連携 〇　コミュニティ・スクール共同事業の推進	〇　魅力ある行事の企画及びそれらを核とした家庭・地域等との協力体制の推進 〇　PTAとともに企画・運営する行事の実施（学期１回以上） 〇　地域と連携した地域行事等への参加の推進	3.3		〇　多賀小ならではの行事を、地域や保護者の方の協力を得て、企画し実施することができた。PTA発案の企画（ステッィクバルーン等）も始めることができた。
Ⅱ　社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進					
1	**読書活動を推進する。** 〇　全児童の目標設定と、その到達 〇　読書好きの子どもを育む活動の推進 （Ｒ7目標貸し出し冊数：１３，０００冊）	〇　年間6回の読書啓発イベントの企画　運営 〇　図書主任、学校図書館事務担当者、図書委員会の連携 〇　保護者や地域ボランティアによる読み聞かせの実施	2.9	3.2	〇　読み聞かせグループ「アオバズク」の復活がよかった。学校司書、委員会児童、保護者や地域の方などの取り組みのおかげで本に親しむ習慣、本への興味・関心がたかまりつつある。 ●　保護者アンケートより、家庭での読書習慣にはまだ課題がある。学校でも、ファミリー読書週間の取組を継続するなど啓発を行いたい。
2	**確かな学力を育む教育を推進する。** 〇　授業力向上につながる授業研究の究明 〇　単元テスト平均得点率85%以上 〇　新聞記事を活用した読解力育成	〇　学力向上を目指した授業改善の在り方を主題研究として取り組む 〇　個に応じた指導のためのチーム作り 〇　新聞記事等活用による読解力育成	3.1		〇　全国学力・学習状況調査の結果を分析し、全職員アウトプットを意識した授業改善に取組んでいる。 ●　新聞記事を活用した取組を増やしていきたい。 ●　単元テスト８５％は届かないこともあった。授業の改善と習熟の確保で基礎・基本の力を付けさせたい。高学年では、授業の内容がわからない、授業が楽しくないと回答する児童も増えている。授業改善を図りたい。
3	**人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。** 〇　ふるさと学習の充実 〇　「いのちを大切にする授業」の企画 〇　いじめの早期発見・早期対応 〇　SCの活用と教育相談の充実	〇　地域素材・地域人材の活用 〇　「いのちを大切にする授業」の参観日での実施（7月） 〇　全職員で全児童の育成に取り組む指導の充実 〇　月一度のいじめアンケートや毎学期一度の教育相談の実施と児童支援	3.3		〇　それぞれの取組を実践し、人権感覚を育てる教育を行うことができた。教育相談を通して児童の悩みなどの早期発見に努めた。 ●　あだ名で呼ぶなどを含め、人間関係のトラブルがある。その都度指導をしているが、その後の様子の見届けや根気強い指導が必要である。個を大切にし一人一人から話を聞く機会を確保するとともに、集会などを活用した全校での取組を行うなど積極的な生徒指導を今後もすすめたい。
4	**特別支援教育を推進する。** 〇　個別の支援について共通理解・共通実践 〇　特別支援コーディネーターを中心とした支援体制の構築	〇　月１回の生徒指導対策会、年５回の校内支援委員会での情報共有と共通実践事項の確認 〇　関係機関との連携と情報共有	3.2		〇　特別支援COを中心とした支援体制が構築されている。学級のみならず、学校全体で児童を見守り、授業の様子や頑張りを職員で共有しながら児童のよさをさらに伸ばしていきたい。 ●　低学年の段階で、気になる児童については、積極的に校外の機関も活用し適切な支援が行えるようにしたい。
5	**郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。** 〇　地域行事と学校教育の関連した計画 〇　キャリア教育と関連付けた計画	〇　郷土への思いを高めるためのキャリア教育との連携（人財活用） 〇　地域人材の活用年間３０回以上 〇　実施内容の学校HP等での紹介	3.4		〇　地域学校協働活動推進員の協力を得て、地域人材を活用した教育活動が展開できている。児童とともに行う熟議や浜うどん作り等新しい取組もでき、郷土、地域に関わることができている。 ●　地域の方々が指導に来てくださることに感謝の気持ちを持たせることもしっかりと指導していきたい。
6	**キャリア教育を推進する。** 〇　キャリアパスポートを生かした教育の推進 〇　「キャリアパスポート」による地域の行事等との関連付け	〇　小中高を見通した「キャリアパスポート」の100%活用 〇　年間指導計画へのキャリア教育関連の 挿入と見直し	3.1		〇　各行事ごとに「キャリアパスポート」を活用して意欲の向上と振り返りを行った。キャリアパスポートと行事等を関連させることで、経験を通じた自己実現につながっている。
7	**社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進する。** 〇　学校教育及び家庭学習におけるＩＣＴ活用の推進 〇　国際理解教育及び外国語教育の充実	〇　授業でのＩＣＴ機器の活用 〇　タブレット持ち帰りによる家庭学習での活用 （３年生以上） 〇　ALT、国際交流員等の積極的活用	3.2		〇　タブレットの活用について職員研修を行った。 ●　タブレットの持ち帰り学習が少なかった。さらに効果的な活用方法を共有するなどしてICT教育の推進を図りたい。
Ⅲ　教育を支える体制や環境の整備・充実					
1	**教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。** 〇　教職員の意識改革の推進 〇　内容に応じた校務分掌の工夫 （全体・小集団・個人） 〇　校内外の研修への主体的参加	〇　日常的に相談しやすい体制づくり 〇　職員会における一人一発言 〇　行事内容及び役割分担の見直し 〇　新教育研修制度の周知による主体的参加と積極的支援	3.3	3.3	〇　対話を中心とし、OJTを意識した研修を実施することができた。少ない人数で、職員の入れ替わりも多く、前年度までの引継ぎが確実にスムーズに行えるような仕組みをさらに整えていきたい。日常的に相談しやすい体制ができており、協力しながら仕事を進めることができている。 ●　さらなる働き方改革に向けて積極的に校務のDXを進めたい。
2	**安全、安心な教育環境の整備・充実に努める。** 〇　緊急時・不急時における危機管理の徹底と常時危機意識の高揚 〇　児童の危機意識を高める指導	〇　月１回の安全点検時におけるマニュアルを生 かした環境整備 〇　安全点検や通学路点検、登下校時の指導の実施 〇　避難訓練時のTO-DOリスとの活用及び危機管理マニュアルの活用	3.2		〇　各種避難訓練や児童による安全点検などの取り組みで、児童自身に安全意識を高めることができた。 ●　下校時の危機管理について文書を配付し保護者への啓発は行えたものの災害時の備えについて家庭で話し合う機会は少ない実態がある。
Ⅳ　文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進					
1	**学校体育の推進に努める。** 〇　データを生かした指導の充実 〇　個の力を伸ばす授業及び日常指導 〇　体を動かすことが好きになる教育の推進 〇　健康増進意識の高揚	〇　体力テストの結果の分析考察 〇　体力向上プラン活用の授業構成（導入の工夫） 〇　委員会活動提案の運動遊びの実施 〇　基本的な生活習慣の定着及びう歯治療等の治療率の向上（R6：８１％→R7：９０％）	3.3	3.3	〇　「ほけんだより」の活用や歯磨き大会への参加など保健指導の充実が図られている。 〇　児童が体を動かして活動することを楽しみながら活動できている。 ●　体力の二極化が進んでいる。 ●　歯科治療率は現在82%。治療勧告を継続し、目標の90%に近づけていきたい。 ●　少々の体調不良で見学する児童が多いのが気になる。家庭と密に連携を図り学校全体で個の力を伸ばそうとがんばる雰囲気をつくりたい。